

原災に備え、新鋭車両整備

放医研 緊急被ばく医療機器搭載

放射線医学総合研究所は十七日、福島原子力災害を踏まえ、緊急被ばく医療体制の強化を図るため、「支援車」「大型救急車」「検査測定車」の三台の新車両を整備し、報道関係者に公開した。

三台ともに、衛星電話システム、計測した放射線量・画像データの本部への送信および災害対策本部からの指示をリアルタイムで表示できる空間放射線モニタリングシステムを搭載している。

大型救急車は、汚染の可能性のある救急患者搬送を行う。寝た状態の被災者を二名、比較的軽傷で椅子に座ることが可能な被災者を含めると最大六名まで搬送できる。安定ヨウ素剤や除染用の薬剤も搭載しているほか、通常の救急車としての使用も可能。

検査測定車は、発災初期段階の支援活動で被災者の被ばく線量評価を行う。γ線のエネルギーの分布を調べられる遮蔽体付きγ線スペクトロメータ等を設置しており、試料を分析して体内に摂取された放射性核種を評価したり採取した細胞の染色体を調べて被ばく線量を評価したりする「バイオアッセイ」を簡易的に行える。また、放医研REMAT(緊急被ばく医療支援チーム)の高性能小型計測機材等を搭載し、被災地において汚染状況の確認や被ばく線量評価が可能。データは車載の通信システムで転送され、本部や専門家による支援方法の判断に利用できる。

第12回放射線遮蔽国際会議

ICRS12 運営委員長 中村尚司(東北大学)

第十二回放射線遮蔽国際会議(ICRS12)が、今年九月二日から七日まで、奈良市奈良新公会堂において日本原子力学会の主催、米国原子力学会(ANS)、米国保健物理学会、韓国原子力学会、中国原子力学会、経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)、米国防務省原子力研究所、放射線安全情報センター(RSICC)等の共催で、ANS放射線防護遮蔽部会会合RPSD2012を兼ねて開催される。

会議は、放射線遮蔽に係わる国際的な研究の進

展の総括、今後の研究動向と重点領域についての専門家間の議論、放射線遮蔽を基軸とした研究の促進、世界における原子力エネルギー・放射線利用の発展に資することを目的としている。下表に示すように四五年毎に極で順番に開催されているこの分野における唯一の国際会議で、第十回以降はRPSDとの共同開催となっている。

会議は、第五回以前は「原子力遮蔽国際会議」の名称だったが、多方面における放射線利用の増大に伴い、第六回以降は

「放射線遮蔽国際会議」となっている。過去二回の日本開催は、かつての日本原子力研究所が主催していた。会議はOECD/NEAが中心となり取りまとめを行ってきた。直近の米国アトランタで開催された第十一回は二百四十件の発表、三百人の参加(日本から三十四人があり、ここで第十二回の日本開催が決定された。

会議では、原子力エネルギー利用に係る原子炉燃料サイクル施設、放射性廃棄物施設、核燃料輸送・貯蔵、放射線利用に係る加速器施設、医療施設、工業施設等に関する放射線遮蔽、安全、防護を対象とした設計コードや関連データの開発と応用遮蔽実験研究、放射線

計測技術開発、線量評価及び放射線防護基準等について、各国専門家や実務者による幅広い発表と議論が行われる。

昨今の原子力を巡る情勢は、エネルギー安定確保と温室効果ガス削減を契機に原子力エネルギー利用の大幅な増大に向けて、世界の原子力エネルギー、新規導入をめぐり、放射線利用の安全と発展に大きな役割を果たしてきている。今回の国際会議にも関心が高くなり、放射線利用の安全と発展に大きな役割を果たしてきている。

今回の開催では、原子力利用の拡大が著しい韓国と中国の原子力学会が共催となるなど、アジア地域の原子力関係者が数

安全性向上にも貢献

新知見集め奈良で開催

放射線利用の安全と発展に大きな役割を果たしてきている。今回の国際会議にも関心が高くなり、放射線利用の安全と発展に大きな役割を果たしてきている。

今回の開催では、原子力利用の拡大が著しい韓国と中国の原子力学会が共催となるなど、アジア地域の原子力関係者が数

大深度ボーリングも実施

保安院指摘受け断層調査

日本原子力発電は十四日、敦賀発電所敷地内の破砕帯に関する追加調査計画を策定した。原子力安全・保安院の指摘を受け、敷地の地質・地質構造について、露頭調査、トレンチ調査、大深度調査掘削などを行うもの。

保安院は、四月の現地調査で、浦底断層との連

細野原発相より非公開ヒア

国会事故調

国会の原子力事故調査委員会は十九日、細野豪志・内閣府特命担当大臣から非公開で聴取を行った。事故当時、細野氏は菅直人首相の補佐官であり、福島原発事故対策統

合本部の事務局長だった。同委員会は原則公開で聴取を行っており、細野大臣自身も公開の場で聴取を求めたが、公開の対象は各組織の当時のトップに限定するとして、事故調側の意向で非公開となった模様。

申請用紙は、政府刊行物サービスセンターの他、原産協会でも頒布しており、郵送でも入手可能。詳細はホームページ(<http://www.nus-tec.or.jp>)参照。問い合わせは同センター・安全業務部主任者試験グループ(電話03-3814-7480)まで。

放射線取扱試験申込受付中

原安技センター

原子力安全技術センターは「平成二十四年度放射線取扱主任者試験」の実施要綱を発表。試験は、第一種が八月二十一日、第二種が八月二十二日、第三種が八月二十四日。札幌種が八月二十四日。札幌(東海大)、仙台(東北学院大)、東京(成蹊大)、名古屋(名城大)、大阪(大阪商業大)、福岡(九州大)の六か所で行われる。申込は、五月十八日から六月十八日まで(郵送は同日消印まで有効)。

申請用紙は、政府刊行物サービスセンターの他、原産協会でも頒布しており、郵送でも入手可能。詳細はホームページ(<http://www.nus-tec.or.jp>)参照。問い合わせは同センター・安全業務部主任者試験グループ(電話03-3814-7480)まで。

第27回日台原子力安全セミナー

原産協会代表団への参加者募集
期間:平成24年7月23日(月)~27日(金)

団長: 服部拓也 原産協会理事長

「福島事故以降の原子力」をメインテーマに、日台双方で情報を共有し、原子力安全を一層向上させ、社会の信頼を回復する。

セミナー: 24日(火)、25日(水)

主催: 一般社団法人 日本原子力産業協会
原子力能委員会、台湾電力公司、核能研究所、放射性物質管理局、中華核能学会

場所: ハワード・プラザ・ホテル(台北)、
国聖原子力発電所、ほか

■福島事故以降のエネルギー政策
■原子力安全対策
■廃止措置と除染
■社会影響 など

台湾開催
詳細はWebで www.jaif.or.jp

施設見学: 26日(木)

○国聖原子力発電所
(台北に近接するBWR2基)

参加費(会員): 85,000円(税込)/人
申込締切: 6月29日(金)

一般社団法人 日本原子力産業協会 国際部
Tel.03-6812-7109 Fax.03-6812-7110 e-mail: nittai@jaif.or.jp

「ニュークレオニクス・ウィーク」日本語版

platts 日本語版

福島事故後、世界の原子力動向は、わが国のエネルギー政策にも大きく関わる問題として注目されています。その最新情勢を現地取材に基づき、タイムリーに伝える情報源として「Nucleonics Week」は国際的にも信頼されています。

日本原子力産業協会では、1991年以来、独占翻訳権を得て「ニュークレオニクス・ウィーク日本語版」として発行しています。迅速かつ原子力専門家による監修を経て、英語版と殆ど時間差なく、電子メールマガジンの形で直接購読者に配信しています。

【お申込み・お問合せ】一般社団法人 日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部
TEL.03-6812-7103, FAX03-6812-7110 電子メール nwj2@jaif.or.jp

第1回 (1958年)	英国・ケンブリッジ
第2回 (1961年)	スウェーデン・スタズビック
第3回 (1967年)	英国・ハーウェル
第4回 (1972年)	仏国・パリ
第5回 (1977年)	米国・ノックスビル
第6回 (1983年)	日本・東京
第7回 (1988年)	英国・ボーンマス
第8回 (1994年)	米国・アーリントン
第9回 (1999年)	日本・つくば
第10回 (2004年)	ポルトガル・マティラ
第11回 (2008年)	米国・アトランタ
第12回 (2012年)	日本・奈良